SONY

リリース ノート

Catalyst Prepare™

2026 年 6 月

目次

この文書には、以下のトピックに関する情報が記載されています。

- 1.0 ようこそ
- 2.0 新機能
- 3.0 既に報告されている問題
- 4.0 動作環境
- 5.0 インストール
- 6.0 Sony Corporation へのお問い合わせ

1.0 ようこそ

Catalyst Prepare をご購入いただき、ありがとうございます。この文書には、Catalyst Prepare のインストール方法と使用方法に関する情報が記載されています。

2.0 新機能

バージョン 2026.1.1 での主な不具合解消/変更

- X-OCN素材を補正分析した際に異常終了する不具合を修正しました。
- セキュリティ脆弱性の修正を行いました。

バージョン 2026.1 での主な不具合解消/変更

- 水平補正の手動調整機能が追加されました。
- X-OCNでサポートされる解像度が新たに追加されました。
- 96kHz/32bit float音声に新たに対応しました。

バージョン 2025.3 での主な不具合解消/変更

- 音源分離機能が追加されました。
- HLG マイルドが追加されました。
- PDFエクスポートで複数クリップを選択した際にエクスポートが完了しない不具合を修正しました。
- プロキシクリップを使用した際に色調整が正しく反映されない場合がある不具合を修正しました。
- アプリをインストールしたユーザーと異なるユーザーで起動した際に起動できない場合がある不具合を修正しました。
- シューティング情報の表示に対応しました。
- 手振れが大きいクリップに対して手振れ補正を行った際のクロップを改善しました。

3.0 既に報告されている問題

- セカンダリ モニタでアプリケーションを実行した後に、セカンダリ モニタが切断された状態でアプリケーションを再起動すると、アプリケーションが表示されない場合があります。［Ctrl］と［Shift］を押しながら、アプリケーションを再起動すると、アプリケーション設定がリセットされます。
- 4K メディアのシステム要件を満たしていないシステムで 4K クリップを再生すると、ビデオのプレビューにノイズが表示されることがあります。
- ASC-CDL（.cdl）ファイルを既知のフォルダ構造に保存すると、このファイルが［ASC-CDL のロード］ダイアログに表示されません（XAVC、XDCAM ボリュームなど）。ASC-CDL ファイルを標準フォルダなどの一般的な場所に保存すると、これらをロードできるようになります。
- Intel HD Graphics グラフィック アダプタを搭載した一部のノート パソコンで、アプリケーションの起動が失敗することがあります。グラフィック アダプタの最新ドライバを手動でダウンロードおよびインストールするには、https://downloadcenter.intel.com をご覧ください。
- アプリケーションに「GPU アクセラレーションを使用するには、OpenCL 1.1 バージョンをサポートする互換性のあるグラフィック カードが必要です。更新されたグラフィック ドライバーをインストールするか、互換性のあるグラフィック カードをインストールしてください。」というメッセージが表示された場合は、新しいバージョンのグラフィック ドライバーをインストールしてください。それができない場合は、Intel OpenCL CPU Runtime をインストールしてください。Intel OpenCL CPU Runtime のインストールについて詳しくは、このナレッジ ベース記事をご覧ください。
- 高解像度のクリップをプレビューする際にスムーズに再生されない場合は、［ビデオ プレビュー］ウィンドウにある拡大鏡をクリックし、プレビューの解像度を下げてください。

- メタデータを MXF 以外のファイル（およびフォルダ構造にない一部の MXF ファイル）に保存することができません。
- 一部のシステムでは、Intel HD Graphics Driver for Windows 8.1 バージョン 10.18.15.4279 を使用すると、トランスコードが失敗する場合があります。Intel から最新ドライバをダウンロードして使用してください。
- Blackmagic Design SDI または UltraStudio デバイスを通じて外部モニタを使用する場合は、Blackmagic Design Desktop Video 10.1.1 以降のバージョンが必要です。
- スパンされた AVCHD クリップにおいて、クリップ間のトランジションをプレビューすると、オーディオとビデオにノイズが生じることがあります。スパンされている AVCHD クリップのトランスコードは実行できません。これらを使用する前にローカル ドライバにクリップをコピーすることをお勧めします。
- SxS カードをフォーマットする必要がある場合は、Memory Media Utility を使用してください。
- XDCAM Professional Disc ボリュームをフォーマットまたはファイナライズする必要がある場合は、XDCAM Drive Software を使用してください。
- Windows 上で exFAT でフォーマットされた SxS カードにトランスコードすると、トランスコード パフォーマンスが低下する可能性があります。
- ストーリーボードをエクスポートする際、デフォルトで保存先のフォルダから Home フォルダにエクスポートが行われると、エクスポートに失敗します。別のフォルダを選択するとエクスポートが正常に完了します（macOS のみ）。
- クリップを Catalyst Prepare にインポートした後、Catalyst Browse で編集したメタデータとマーク イン/アウト ポイントが維持されない場合があります。Catalyst Prepare を閉じて再度開くと、キャッシュされたメタデータが更新されます。
- ストーリーボードのロードが完了する前にストーリーボードを編集すると、アプリケーションがクラッシュする可能性があります。
- 一部のコンピュータで、起動/登録時にアプリケーションがハングする可能性があります。グラフィック ドライバを更新すると、アプリケーションを正常に起動できるようになります。
- Catalyst Prepare 2.0 以前のバージョンで作成したライブラリを使用すると、ライブラリ内の外部フォルダがビンとして表示されます。
- Final Cut Pro X 形式にエクスポートされた Catalyst Prepare プロジェクトを DaVinci Resolve で開く場合に、DaVinci Resolve タイムラインのフレーム レートが Final Cut Pro プロジェクトのフレーム レートに一致していると、色補正情報（リフト、ガンマ、およびゲイン）がインポートされることがあります。
- Catalyst Prepare 2015.1 を使用して **［温度］**調整が含まれるカラー プリセットを作成した場合、Catalyst Browse または他のバージョンの Catalyst Prepare にプリセットをロードすると、**［温度］**値が正しく表示されない可能性があったバグを修正しました。実行先アプリケーションの **［温度］**値を調整し、これを使用してプリセットをもう一度保存することができます。

  Catalyst Browse または他のバージョンの Catalyst Prepare で作成されたカラー プリセットを Catalyst Prepare 2015.1 にロードすると、**［温度］**値が正しく表示されません。Catalyst Prepare 2015.1 の **［温度］**値を調整し、これを使用してプリセットをもう一度保存することができます。
- 複数の GPU を搭載した（AMD GPU × 1 と、Intel または NVIDIA GPU × 1）一部の Windows 10 システムで Catalyst アプリケーションがクラッシュする可能性があります。AMD GPU ドライバの最新情報を確認してください。
- 10 ビット XAVC HSクリップのハードウェア デコードは、Intel Skylake U、H、および S プロセッサでサポートされています。
- Optical Disc Archive ボリュームで複数のディスクのクリップを操作する際に、ディスクを切り替えると、再生が一時停止する可能性があります。再生が中断される場合は、ローカル ドライブにクリップをコピーしてください。
- AMD Radeon GPU を使用する一部の Windows 7 コンピュータで、**［セカンダリ ウィンドウの表示］**が選択されている場合、再生時にアプリケーションがクラッシュする可能性があります。
- スパンされたクリップは、Catalyst Prepare ライブラリでの使用を想定していません。ただし、バグによってスパンされた AVCHD クリップがライブラリに追加されます。色補正を適用したり、イン/アウト ポイントを調整したり、ストーリーボードにスパンクリップを追加したりすると、一貫性のない動作が発生する可能性があります。
- **［個別のファイルとしてクリップをレンダリング］**と**［マーク イン/アウト ポイントを使用］**をオンにしてストーリーボードをエクスポートすると、開始と終了のタイムコード値が維持されません。
- アプリケーションのユーザー設定をデフォルト値にリセットする場合は、［Ctrl］キーと［Shift］キーを押しながらアプリケーション アイコンをダブルクリックします。アプリケーションを起動すると、すべてのユーザー設定のリセットを求めるメッセージが表示されます。
- DPX 画像シーケンスを操作する際に、次の機能は使用できません。名前の変更、削除、選択範囲からのストーリーボードの作成、ライブラリまたはフォルダへのコピー、Ci へのアップロード、およびフラッシュ バンドの補正。
- クリップ リストとそのクリップを FAM を介して XDCAM デバイスにコピーするときに、クリップの UMID データが書き換えられてしまいます。そのため、メディア リンクが破損して、コピー操作に失敗します。
- 大きくなる MXF クリップを FTP を介して PDW-HD1500 にコピーしようとしても、失敗する可能性があります。
- ファイル名にバックスラッシュ（\）が含まれているクリップをプレビューすると、「メディアはオフラインであるか、見つからないか、サポートされていません。」というエラー メッセージが発生するおそれがあります（macOS のみ）。
- XDCAM Station または Professional Disc ボリュームから MXF クリップを表示した場合に、Catalyst Prepare で sidecar.xml からメタデータが読み込まれるようになりました。これにより、パフォーマンスは向上しますが、インスペクタで表示されるメタデータのセットが縮小される可能性があります。
- 無効なライセンス ファイルのため Catalyst Prepare が起動に失敗した場合、次回アプリケーションの起動時に正しいライセンス ファイルが選択されるようアプリケーションのユーザー設定をリセットすることができます。
  - Windows：アプリケーションが起動する間、［Shift］キーと［Windows］キーを押したままにします。

- MacOS：アプリケーションが起動する間、［Shift］キーと［Command］キーを押したままにします。

- macOS 10.13（High Sierra）を実行している一部のコンピュータで、セカンダリ ウィンドウを有効にした状態でクリップをプレビューすると、表示に一貫性がなくなったり、ハングやクラッシュが発生したりする場合があります。
- macOS 10.13（High Sierra）を実行している一部のコンピュータで、ストーリーボードに色補正を適用すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- macOS 10.13（High Sierra）を実行している場合、Professional Disc および Optical Disc Archive ボリュームにアクセスできません。デバイス ドライバ更新のリリース時に、サポートが有効になります。XDCAM Drive Software および Optical Disc Archive Software の最新情報については、https://scs.custhelp.com/app/answers/detail/a_id/5215/kw/Announcement を確認してください。
- macOS High Sierra（10.13）で破損したビデオ プレビューや再生パフォーマンスの低下に気付いたら、最新の High Sierra アップデートをインストールしてシステムが最新のグラフィック ドライバを使用していることを確認してください。
- XAVC Intra、XAVC Long、および XAVC S 形式にトランスコードする際、一部の Windows PC でエラーが発生する場合があります。この問題は、Windows Update を実行するか、Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable を手動でインストールすることで解消されます。
- スパンされた AVCHD クリップをプレビューするときに、クリップ間のトランジションにブロッキング ノイズが生じることがあります。**［リレー クリップの結合］**コマンドを使用すると、新しいクリップの再生時にこのノイズは生じません。
- クリップをまだロードしている間にクリップを削除しようとすると、Professional Disc ボリュームからのクリップの削除に失敗する可能性があります。メインの［ビデオ プレビュー］ウィンドウまたはインスペクタの［プレビュー］ウィンドウに［ロード］アイコンが表示されていないことを確認した後、クリップの削除を再度試みてください。
- Enterprise Email（SSO）アカウントを使用して Ci ワークスペースにログインしようとすると、正常にログインできません。この問題について、現在鋭意調査中です。
- ［オプション］の **［ビデオ処理デバイス］**ドロップダウン リストからいずれかの NVIDIA GPU を選択すると、場合によっては macOS コンピュータの再生性能が低下する可能性があります。この場合、**［ビデオ処理デバイス］**ドロップダウン リストから Intel GPU を選択してください。
- NVIDIA GPUが搭載されている一部のコンピューターでは、［ヒストグラム］ウィンドウと［スコープ］ウィンドウで点滅が発生する可能性があります。最新のNVIDIAドライバーに更新してください。
- 録画中にレンズを取り外して再度取り付けた場合、MP4クリップのクリップの手ブレ補正に失敗する可能性があります。
- Catalyst 2020.1 またはそれ以前からのアップグレードの場合、IntelGPU が搭載されている一部のシステムでアプリケーションが起動しない場合があります。これが発生した場合は、以下を試してください。
    1. 最新の Intel GPU ドライバーをインストールします（同じバージョンを再度インストールしても問題は解決しません）。
    2. Intel SDK for OpenCL をアンインストールします。
        - ［スタート］メニューを開いて **［設定］**ボタンをクリックします。
        - ［設定］メニューから **［アプリと機能］**を選択します。
        - **［このリストを検索］**と表示されたボックスに「OpenCL」と入力します。
        - 検索結果に「Intel SDK for OpenCL」が表示された場合は、それを選択してアンインストールします。
        - 上記のコンポーネントをアンインストールした後、Catalyst Prepare を再び起動してみます。

- Intel GPU を使用してクリップを手ブレ補正するとき、一部のユーザー インターフェース要素が白で表示される場合があります。この問題は、最新の Intel GPU ドライバーに更新することで改善できます。この問題が発生しても、手ブレ補正したクリップのレンダリング出力は影響を受けません。
  一部の XAVC HS プロキシ— クリップをプレビューしたときに、アプリケーションのクラッシュを引き起こす可能性、またはフレームの上部に緑色の線が表示される可能性があります。この問題はプレビューのみに影響するもので、ソース クリップや、レンダリングされる出力には影響しません。次のいずれかの方法で、問題を回避できます。
    - ［オプション］で **［プロキシ クリップを使用してプレビュー］** を取り消します。
    - ［再生設定］コントロールを表示するには、トランスポート コントロールの左側にある **［再生設定］** ボタンをクリックし、次に **［品質］** または **［すべてのフレーム］** ボタンをクリックします。

- ［ライブラリー クリップ］が選択されているときに、［Catalyst Prepare］ウィンドウの下部にある **［色の調整］** ボタンをクリックするとエラーになる場合があります。
- ［ライブラリー］がいずれも開いていないときに、［Catalyst Prepare］ウィンドウの下部にある **［色の調整］** ボタンをクリックすると、［整理］表示内に［色の調整］コントロールが開く場合があります。
- インストール後にアプリケーションを初めて起動させたときに Intel クイック シンク ビデオが正しく初期化されな場合があります。アプリケーションを終了させたうえで改めて起動すると、クイック シンク ビデオが想定とおりに稼働します。
- macOS Catalina を用いている一部のシステムでは、OpenCL フレームワークでの回帰により、Catalina セキュリティ アップデート 2021-002 (19H1030) のインストール後にサポートされたメディアが表示されない場合があります。セキュリティ アップデート 2021-003 (19H1217) 以降のアップデートでは、こうした行動は見られません。その後のアップデートをインストールしても問題が解消しない場合には、セキュリティ アップデート 2021-002 (19H1030) をロールバックしたうえで、2021-003 (19H1217) 以降のアップデートをインストールしてください。
- 一部の GPU 設定を搭載した Windows システムでは、Catalyst 2021.1 以前で提供される XAVC S クリップのプレビューで、Catalyst アプリケーションでビデオが歪んで再生されることがあります。レンダリングされるビデオ エッセンスはエラーフリーですので、歪みは、Catalyst

アプリケーションでの再生に限定されます。Catalyst 2022.1 でクリップを再レンダリングすれば、この問題が解消されます。

- XAVC S Long 422 S-Log2 または S-Log3 カラースペースを用いてクリップをエクスポートすると、一部の NLE では、ビデオ範囲としてクリップを認識しない可能性があり、プレビュー画像が拡張される可能性があります。独自の入力範囲設定をもつ NLE (DaVinci Resolve の新バージョンなど) においては、範囲を［フル］に設定すれば、プレビュー画像色が拡張されなくなります。これ以外の方法として XAVC S Intra 422 または XAVC S Long (420)を使用することができます。
- 異なるカラースペースの設定を用いて既存のクリップを上書きした後に、エクスポートされたクリップのカラースペースが正しく表示されない場合があります。Catalyst Prepare を終了し再起動した後に、正しいカラースペース表示されるようになります。
- 最初にアプリケーションを開始した後に UI テキストが破損する場合があります。アプリケーションを終了し再起動した後に、テキストが正しく表示されるようになります。

4.0 動作環境

Catalyst Prepare の使用に必要な動作環境は次のとおりです。

- 64 ビット オペレーティング システム：Microsoft® Windows 11,macOS 14 (Sonoma), macOS 15 (Sequoia), macOS Tahoe 26
- Intel 第11世代以降
- Vulkan 1.2以上
- Intelでビデオの手ブレ補正処理／レンズブリージング補正をするには、 第11世代以降が必要です

- プロセッサー
  - 最低要件
    - 2GHzマルチコアプロセッサ
    - Intel環境: SSE 4.2以上のCPU
  - 推奨要件
    - 4Kメディア：8コアプロセッサ
    - XAVC S 4:2:0 8-bit：Quick Sync Video または Xeon E5 プロセッサを搭載した Intel Ivy Bridge Core i7
    - XAVC HS 4:2:0：Quick Sync Video を搭載した Intel Kaby Lake Core i7（8Kメディアでは必須）
    - XAVC H / XAVC HS 4:2:2：Quick Sync Video を搭載した Apple M1 または Intel Ice Lake Core i7（8Kメディアでは必須）
    - XAVC/XAVC S 422 10-bit Long GOP / Intra 4Kメディア：Apple M1 以上
    - XAVC H / XAVC HS 422 10-bit 8Kメディア
      macOS：Apple M1 以上が必須
      Windows：Quick Sync Video および Intel Ice Lake Core i7 以上が必須

- ストレージ
  - 最低要件
    - 500MB以上のハードディスク空き容量（プログラムのインストール用）
  - 推奨要件
    - 4K以上のメディア：ソリッドステートディスク（SSD）または高速RAID

- メモリ（RAM）
  - 最低要件
    - 4 GB RAM
  - 推奨要件
    - 4K以上のメディア：8GB RAM
    - XAVC Long 422 3840x2160 200 Mbps（Sony）トランスコーディングプリセット：16GB以上のRAM

- GPU
  - 最低要件
    - OpenCL 1.1以上をサポートするApple、NVIDIA、AMD、またはIntel GPU
    - ビデオの手ブレ補正処理／レンズブリージング補正：vulkan1.3以上
    - OpenGL 2.1以上（最適なパフォーマンスのため）
  - 推奨要件
    - 4Kプレビュー、HDレンダリング、HDビデオの手ブレ補正処理／レンズブリージング補正：2GB以上のGPUメモリ
    - XAVC S / XAVC HSメディアのデコード：6GB以上のGPUメモリ
    - 4Kレンダリング：6GB以上のGPUメモリ
    - 8Kレンダリングまたは4Kビデオの手ブレ補正処理／レンズブリージング補正：最新のGPUドライバーバージョンを推奨

    - XAVC Long 422 3840x2160 200 Mbps（Sony）トランスコーディングプリセット：専用GPU使用時は4GB以上のGPUメモリ

- その他
    - Windows環境
        - Intel環境では、XAVC S / XAVC H / XAVC HSのハードウェアアクセラレーションを部分的に提供
    - macOS環境
        - Apple M1以上の環境で、XAVC / XAVC S / XAVC H / XAVC HSメディアのハードウェアデコーディングを提供
        - 8KメディアではIntel Macは非推奨

ご使用の GPU が OpenCL 1.1 をサポートしている場合は、OpenCL で GPU の性能を最大限に引き出せるように、最新のドライバーをインストールしてください。ご使用の GPU が OpenCL 1.1 をサポートしていない場合は、Intel OpenCL CPU Runtime をインストールしてください。Intel OpenCL CPU Runtime のインストールについて詳しくは、このナレッジ ベース記事をご覧ください。

5.0 インストール

インストール ユーティリティによって、必要なフォルダがお使いのコンピュータに作成され、Catalyst Prepare で必要なすべてのファイルがコピーされます。

1. 当社の Web サイトからインストール ユーティリティをダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルをダブルクリックし、画面の指示に従って、Catalyst Prepareの該当するバージョンをコンピュータにインストールします。

6.0 Sony Corporation. へのお問い合わせ

Sony Corporation のお問い合わせ先は以下のとおりです。

カスタマー サービス／セールス／テクニカル サポート：
カスタマー サービス、テクニカル サポート オプションについて詳しくは、https://www.sony.net/catalyst/help/ をご覧ください。

© 2026.Sony Corporation All Rights Reserved.